



年 組 名前

道新で
ワークシート

北大発新興企業急増77社

昨年度21社認定 条件緩和で

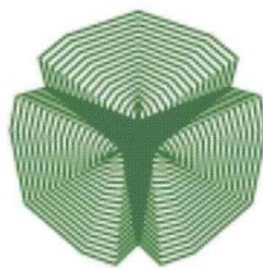
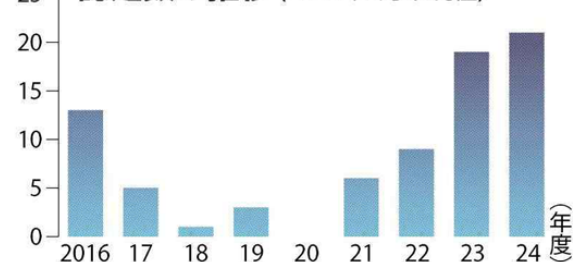
北海道大学が事業拡大を支援する「北大発認定スタートアップ企業」の認定数が増えている。教職員・学生の起業が増加傾向にあるほか、条件を緩和して積極的にPRしたこともあり、2024年度は年度別で過去最多の21社認定され、計77社となった。北大は研究成果や知的財産を活用した事業展開を後押しすることで、大学の価値を高めていきたい考えだ。

専用ロゴ使用可能に

同制度は16年度に始まった。「北大などが所有する知的財産の活用」もしくは、「北大の教員や学生が設立」などの条件を満たした企業を独自に認定する。資金支援はないものの、企業は専用ロゴが使えるほか、事業拡大に有益な人材の紹介や資金調達に向けたサポートなどが受けられる。初年度は13社だった企業数は、9年で約6倍に増加。北大職員だった伊藤博之さんが設立し、音声合成ソフト「初音ミク」などを販売するクリプトン・フューチャー・メディア（札幌）や、北大大学院の川村秀憲教授が技術顧問を務めるA I（人工知能）開発のAWL（アウル、札幌）も名を連ねる。クラフトビールを開発する昨年設立のパイオニア（札幌）も認定企業の

一つ。代表を務める北大大学院修士2年の宮地帝輔さん（25）は「認証ロゴをパッケージに使い、

北大発認定スタートアップ企業の認定数の推移（2025年3月末現在）

HOKKAIDO
UNIVERSITY
STARTUP

北大が公式ホームページで公開している認定企業に付与している認証ロゴ（北大提供）

取引先や顧客の信用につながっている」と話す。

21年度からは、既存の企業が北大の研究成果の提供を受けたり、共同研究したりするなど、北大との結びつきが比較的弱い企業にも対象を広げた。

条件緩和により今年2月に認定されたのは、東京のIT企業アクセスネット。北大構内の企業育成施設「北大ビジネス・スプリング」に拠点を構

え、AI分野で共同研究を行う。同社の高石和生代表は「資金支援はなくても、北大発の名前があるだけで事業にとってプラスになる」と話す。

北大は成長が見込める一部の認定企業に対し、知的財産のライセンス使用料や施設利用料の減免、長期の事業戦略づくりをサポートし、対価として企業の新株予約権を取得。今後は株式の売却益で別の企業を支援する仕組みづくりも検討している。

こうした好循環を生み出した上で、最終的に北大としては認定企業から得たライセンス使用料などを自主財源とすることを目指している。スタートアップ創出本部の小野裕之副本部長は「大学は独立した経営法人だが、技術をお金に変える仕組みができていない。研究成果を社会実装し、大学側も資金を得られる仕組みにつなげたい」と話した。（鹿野海人）



道新でワークシート

年 組 名前

(1) 「北大発認定スタートアップ企業」とはどのような制度か、記事の中から読み取って書きましょう。

(2) 北大はこの制度を通してどのようなことを目指しているか、記事の中から読み取って書きましょう。